

Title	田中萃一郎選 欧米の政党政治
Sub Title	
Author	
Publisher	三田学会
Publication year	1913
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.7, No.2 (1913. 4) ,p.405(189)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19130422-0189">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19130422-0189</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ありと悲觀し、且つ關稅改正論者は石炭の輸出を以て英國の富をば外國人の利益の爲めに國外に輸送するものに外ならずと看做せりと雖も、吾人は石炭輸出の増加を以て健全なる經濟上の發達を意味するものなりとして之を歡迎するものなり。最近に於ける政府の調査に據るに英國の石炭の供給は尙ほ新百年間は不足するが如きことなかるべく、且つ必ずや機械工學の進歩發見に依りて現今不經濟なる消費方法を用ゐて石炭に含有せらるゝエネルギーの割五分乃至二割を利用しつゝあるのみなるを近き將來に於て一層多くのエネルギーを利用することを得るに至るべし。加之、石炭の輸出は産國の産業に必要なる原料品を輸入する商船の往航に積荷を供給し、航海業を利するの便あり。若し英國にして石炭を輸出せざらんか、此等の商船の往航は不利益となり、従つて歸航に於ける運賃は比較的高率ならざるを得ず、而して運賃の引上は英國に輸入する原料品の價格を騰貴せしむるの結果を呈すべし。

終りに全世界に於ける石炭の消費に關する統計を掲げんと欲す。次表は産額に輸入額を加へ、此和より輸出額を差引たるものなりとす。

世界石炭消費額 單位百萬噸

年次	英本國	英領	合衆國	他の諸國	合計
一八八六	一七・二	六・三	一〇・二	二五・〇	五八・七
一八九六	一五・五	二〇・八	一五・〇	二七・〇	五八・三
一九〇六	一五・五	二〇・八	一五・〇	二七・〇	五八・三
一九一〇	一五・五	二〇・八	一五・〇	二七・〇	五八・三
一九一四	一五・五	二〇・八	一五・〇	二七・〇	五八・三

此表に示す消費總額は前表に示せる産出額よりも餘程少し。此差は多少石炭の分類上に於ける各國間の習慣の相違に因るものなるも、主として、莫大なる汽船の消費額の爲めに生ずるものなりとす。合衆國の消費額は英本國の消費額の約二倍と三分の一にして一人當りの消費額も亦多し。瑞典に於ける消費額の八七は英國の輸入に係り、獨逸の輸入額の七五%并に佛蘭西の輸入額の四五%は英國より輸出せるものなり。西班牙も亦近年其の消費額の三八乃至三八%を英國より輸入せり。

### 批評と紹介

田中萃  
一郎選 歐米の政黨政治

大正三年三月慶應義塾出版  
中判二百十八頁 定價八十錢

本書は、本年初春に於ける憲政の危機に際して、國民の政治的識見を高むるの一資料たらしめんが爲めに著述上粹せられたるものなり。著者は冒頭政黨の性質を明かにし、且つ政黨の必要なる所以を説明し、轉じて、英、米、佛、獨の四ヶ國に於ける政黨政治の濳蘊に筆を起し、其發達の經路を論じて現狀に説き及ぼし、且つ各其長所と短所を指摘せり。終りに結論として我國の政黨の現狀に論及し、同志會に對して桂公を放逐せんことを懇願し、猶ほ附録として卷尾に英國最近政黨の一節を加へたり。

全篇明快なる叙述簡にして要を盡せり。僅々二百頁の小冊にして、四強國の政黨政治の眞

髓を穿ちて餘蘊なかしむるもの蓋し本書を描きて他に之を求むべからず。

日本には日本特有の國體、歴史、慣習、民族心理ありて、外國に於て成功せるもの必ずしも我國に於て成功せず、又外國に於て失敗に歸せしもの必ずしも我國に於て失敗すべしと云ふ能はざる也。然りと雖も、憲政少くとも其形式は輸入品なるを以て、若し憲政の發達を計らんと欲せば、宜らく其形式が夫れを生みたる地に於て如何に發達し、如何に運用せられ、如何なる特色と如何なる弱點を有すに至れるかを知るの緊要なることは茲に贅言するの要なけん。而して本書は能く此知識を讀者に提供せるものなり。